武士の「武威」解説

徳川みらい学会が講演会

静岡

家康公顕彰400年

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」（会長・芳賀徹県立美術館長）の第3回講演会が5日、静岡市葵区の市民文化会館で開かれた。

東京大の山本博文教授が「徳川時代の『武威』と『平和』」と題して講演した。

「徳川時代の『武威』と『平和』」と題して講演する山本博文教授＝5日午後、静岡市葵区

山本教授は、武士の国家が2世紀半もの間、平和な時代を築いた背景として、信長や秀吉の時代から諸藩に受け継がれてきた武士の面目「武威」があったと解説。「鎖国は、武士の国家を守るためにキリスト教を禁じる政策の中で選択された国家体制」とし、結果として平和な時代がもたらされたと説明した。

また、鎖国から開国に至るまで「武威という国家の建前を保つため、江戸時代の将軍たちは対外的な紛争を避けざるを得なかった」と説き、「国策としての鎖国によって国内産業は発達し、民衆も安定した生活を送ることができた」と話した。

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます